すまいる通信

Vol. 11

2021（令和3）年3月発行

障がい児者福祉施設協議会 広報紙

表紙の写真を「すまいる通信」のタイトルにちなみ、会員施設・事業所の皆様から笑顔の写真を大募集。十四施設から二十五点のご応募をいただきました。その応募作品の中から選ばれたのは、「社会福祉法人 いわき福音協会 障害者支援施設 野の花ホーム」の作品です。

惜しくも大賞は逃しましたが、お寄せいただいた素敵な笑顔の写真も紹介いたします。（五ページ）

〈表紙の写真〉

「花より箱が好き♡」

社会福祉法人 いわき福音協会

障害者支援施設 野の花ホーム

横田（よこた） 桂子（けいこ）さん

〈写真について〉

施設の日中活動で施設周辺の散歩に出かけた時の写真です。施設周辺には桜の木が植えてあり、春になるととても綺麗に咲きます。それを観に行った時の写真です。

横田さん喜びのコメント

「本人は入所して以来、お気に入りの箱を握りしめています。その箱にもこだわりがあり、気に入った箱とそうでない箱があるようで、気に入った箱はずっと握りしめてニコニコ笑顔を見せてくれます。職員も本人の納得のいく箱を一緒に探しています。写真が掲載されることを本人に伝えると、嬉しそうに笑顔を見せてくれました。」

今号の主な内容

「新型コロナウイルス感染症予防対策した上での余暇支援について」（二ページ）
「コロナ禍に負けないチャレンジ」（三ページ）
「新型コロナウイルス感染症拡大防止における取り組み」（四ページ）
「お知らせ」（六ページ）

新型コロナウイルス感染症予防対策した上での余暇支援について

社会福祉法人 天心会
救護施設 しののめ荘

令和二年度は新型コロナウイルス感染症対策とともに始まりました。外部からの面会、ボランティアの受け入れ、外出、行事等様々なものが自粛、制限となりました。

ご利用者、職員共に手足を自由に伸ばせないような日々が続きましたが、新型コロナウイルスを正しく恐れながら、できることをやっていこうということで、様々な工夫を凝らし活動を再開しました。その中の二つの活動「施設内移動販売」「スウィーツDay」をご紹介します。

施設内移動販売

「施設内移動販売」では、普段からお世話になっている市内の業者の方に事情を説明し来荘の依頼を行いました。皆様に快諾いただき、移動販売の開催が決まりました。内容は、日用品や衣類の販売です。

当日は、コロナウイルス感染予防の対策として、まず、お越しになる業者の方に体調および行動履歴チェック、マスク着用、手指消毒をお願いしました。また、体育館内で隣接するお店の間隔を広くし、販売員さんも二名までとしました。

施設としては、買い物のルールに感染症予防の約束事を含め、事前にご利用者へ説明しました。会場となる体育館の出入り口に手指消毒を設置し、体育館へ滞在する時間も十五分間としました。(ご利用者を四つのグループに編成し、順次、職員が時間を確認しながらご案内しました。)

買い物外出支援の代替えとして初めて試みた「施設内移動販売」でしたが、業者の方のご協力の下、ご利用者お一人おひとりがご希望の品物を購入することができました。

僅かな時間でしたが、体育館内に陳列された品物を選び購入するといったスタイルは新鮮なご様子で、お店の方との会話や買い物を楽しむご利用者の姿が印象的でした。

施設内移動販売

スウィーツDay

「スウィーツDay」では、地元のお菓子屋さんのスウィーツ一つ(いちごショート、モンブラン、チョコロールケーキ、等の七種類程度)をご利用者に選んでいただきました。体育館を広く使い、利用する長テーブルの間隔を十分にとりました。食する場合は必ず手指消毒を行い、ご利用者同士が対面とならず互い違いに座れるように設定しました。

ご利用者は、ご自身で選んだ普段とは一味違ったスウィーツを、静かにゆっくり味わいながら召し上がっておられました。

現在は、新型コロナウイルス感染第三波ともいわれる状況ですが、今後も新しい生活の様式に沿ってご利用者の余暇支援について知恵を出し合い様々に工夫し、心も身体も健康に過ごせるよう、職員全体で協力し取り組んでいきたいと思います。

「大好きモンブラン、いただきます！」

「このケーキ、お・い・し・い！」

コロナ禍に負けないチャレンジ

社会福祉法人 矢吹厚生事業所
就労継続支援B型事業「わーくる矢吹」

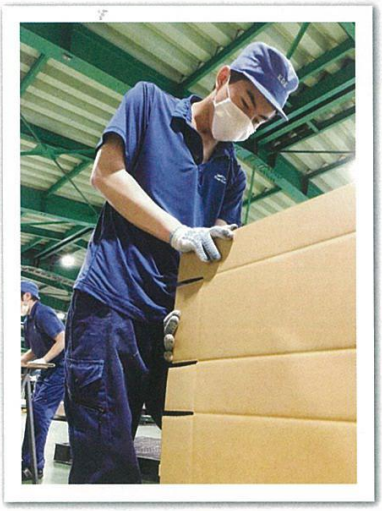
新型コロナウイルスの感染拡大が広がる中、就労継続支援B型事業「わーくる矢吹」では、これまでと違った生産活動の新たな取り組みにチャレンジし、そこで働く障がい者一人ひとりが主体性を持ち、ハンデを盾にせず、一般市場と同じ水準で活き活きと生産活動を行っています。

昨年四月、不織布マスクが手に入らなかったため、この機会を逃さず布マスクの製造を開始しました。元々ユニフォームや園児服など縫製作業をメインとしていたため、縫製技術には自信がありました。障害者施設であっても縫製のプロとして、クオリティや納期を意識し、お客様の目線に立ったものづくりを常に心がけ生産活動を行ってきました。マスクもこれまでで五千枚程を売り上げ、現在も直売所やECサイトなどで継続的に販売を行っています。

昨年八月には、県内の縫製会社とチームを組み、アイソレーションガウン（医療用予防衣）の製造に携わりました。三か月間に渡りガウンを製造し、納品した数は七千枚以上。二月から二クール目がスタートします。福祉施設として医療従事者の方々に貢献できていることや、障害があっても可能性を信じ努力すれば民間企業と同じ土俵で仕事ができるということ等、利用者の自信にもつながりチームワークを強固なものとしました。

アイソレーションガウン縫製作業

施設外就労では、コロナ禍の影響で一時は時間の短縮となりましたが、企業側のバイタリティと理解のお蔭で現在は通常通り通うことができています。利用者の直向きで地道な頑張りが「来てもらわなくては困る」と評価され、昨年十月から県最低賃金の改定に合わせ時給もアップしました。


施設外就労（段ボール組立）作業

また、コロナ禍だからこそ、利用者のストレングスに着目し、障害があってもなくてもという社会の実現（インクルージョン）に向け、当たり前のことが当たり前にできるようビジネスマナーにも力を注ぎました。今年度で三年目となるビジネスマナー研修会ですが、あえてこの時期だからこそ中止せずに換気やソーシャルディスタンスにも十分配慮しながら開催をしました。

以前は集中力もなく、他人事だった利用者ですが、講師の先生の話を真剣に聞き、頷き、メモを取り、自発的に質問をする姿に「自分事として捉える」「人は変われる」などといった点で、講師の先生と職員の方が驚き、とても感慨深いものとなりました。

ビジネスマナー研修

イソップ寓話「北風と太陽」のように、強制的に工賃向上を強いるのではなく、利用者も職員も、一人ひとりがやりがいや居場所、居心地を求めて通ってくることができ、そして「幸せにする（なる）ために働く」という思いを持ちながら、その対価として工賃や給料を得る事ができれば、それが働くモチベーションややりがいに繋がると感じています。利用者一人ひとりが自分は必要とされていると実感を持ち、自信や自立、スキルアップに繋げられれば、それが本当のノーマルなのではと考えます。コロナ禍だからこそ、今後もより一層、利用者と職員が共に支え合いながら、笑いあり涙あり奮闘しながら、限りない成長をし続けたいと思います。

新型コロナウイルス感染症拡大防止における取り組み

社会福祉法人　育成会

当法人の新型コロナウイルス感染対策は、令和二年一月二十九日開催の定例法人幹部会議（経営会議）での決定からスタートし、これを**新型コロナウイルス感染対策　社会福祉法人育成会ポリシー1stステージ**と位置付け、二月以降は矢継ぎ早に具体的な感染対策マニュアルの周知や防護服等の調達、消毒液やスプレー容器を利用者、職員、家族などの関係者へ合計約四百本配布するなど、日常的な感染対策を法人関係者全員で実施しています。

また、小中学校臨時休業への対応として特別休暇制度を整えるなど、職員が働きやすい環境も整えて、現在はポリシー8thステージが進行しており具体的な周知文書は次の十本です。

①理事長談話（利用者・職員）
②三密・不特定多数との接触回避について（職員）
③三密の回避などについて（利用者）
④具体的対策と対応について（職員）
⑤職員バイタルチェックについて（職員）
⑥外部からの人の受入について（職員）
⑦受入確認表（職員）
⑧携帯スプレーの活用について（利用者・職員）
⑨通園バスのご利用に当たってのお願いについて（利用者）
⑩感染者確認時の対応について（職員）

紙幅の関係でそれぞれの解説は叶いませんので、当法人ホームページで詳細をご覧ください。

570着の防護服と180枚のフェースシールド備蓄

160リットルの消毒液やマスクなどの備蓄品（ごく一部）

新型コロナウイルス感染対策
社会福祉法人育成会ポリシー
2020
8thステージ
令和2年8月26日
社会福祉法人育成会

マニュアル表紙

ポリシー2ndステージ（四月九日）から、利用者のみなさま、職員、それぞれのご家族に「理事長談話」として繰り返し発出している文書（一部を抜粋）を紹介します。

「育成会には利用者のみなさんと職員、それぞれの家族を全部あわせると千人～二千人の人たちがいるわけですから、どれほど頑張っても、育成会の人たちの感染を完全に防ぐことが出来るというわけではありません。

ですから、私も含めて育成会の人に感染者が出ても不思議ではなく、それは今日かも明日かもしれないのです。

そこで、何度も繰り返しになりますが、もしも利用者、職員、その家族などの育成会の人に感染者がでたときには、その方やそのご家族のことを心配する気持ちをみんなで持って、一日も早く元気になってくれるように願いましょう。ぜったいに、その人を傷つけるようなことを言ったり、噂話などをしないことを約束しましょう。

みなさまには、ご不便をかけることがまだしばらく続き、無理なお願いをすることが多いと思いますが、ワクチンや薬が作られて世の中が安心できるときまで、育成会のみんなで頑張りましょう。」

https://www.ikuseikai.com
（「いくせいかい」で検索または下のQRコードから）

笑顔の写真 ありがとう

今号でも「すまいる通信」の「すまいる」にちなみ、会員施設の皆様から写真を大募集しました。選考を行った調査広報委員会でも意見が分かれるなど力作が勢ぞろい。惜しくも表紙は逃したけれど、寄せられた写真の中から素敵な笑顔を紹介いたします。ご応募いただいた皆様、本当にありがとうございます。

桜を見て笑顔。

バカ殿と一緒に!!

あの山の向こうまで。

はぁ～い！こっち向いて！

回転寿司店にて

「LOVE LOVE ハート♡」

「こんにちは、来てくれてありがとう。」

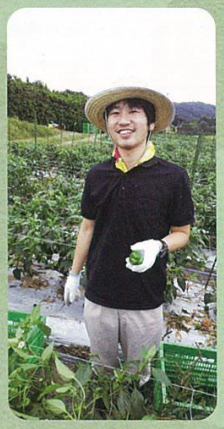
おいしいひなまつり

男子棟デイルームにて

ブランコたのしいね！

かき氷 んまい！いいでしょ♪

地域をきれいに


働く男のさわやかスマイル

お花綺麗だね。

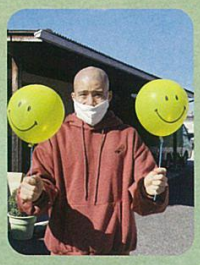
おおくま農園でトウモロコシ収穫！

芋煮会！

一口で…(笑)

コロナには負けん！

ファームガール


どの笑顔も素敵だね

「寒さなんてへっちゃらさ！」

「僕!! 19歳!!」

春の陽気に誘われて

大運動会!! 頑張るぞ!!

お知らせ

マスクを寄贈いただきました

公益財団法人福島民友愛の事業団では、県民から寄せられた寄付を財源に障がい者、児童等を対象とした助成等の福祉活動を行っており、令和二年五月八日、コロナ禍でマスクが不足している中、新型コロナウイルス感染予防対策として不織布マスク三万枚を福島県内の障がい児者福祉施設、児童福祉施設等に寄贈いただきました。

贈呈者
公益財団法人福島民友愛の事業団
理事長　五阿弥（こあみ）　宏安（ひろやす）様（写真右側）

受納者
福島県社会福祉協議会
副会長　安齋（あんざい）　睦男（むつお）（写真左側）

障がい児者福祉施設等への応援職員派遣支援事業の実施

新型コロナウイルス感染防止対策を徹底してもなお、感染者が発生しうる事態を想定し、福島県から業務を受託し、応援職員派遣支援事業を本協議会で実施することとなりました。

本事業は、県内の障がい児者福祉施設等（入所施設）において感染者が発生し、職員が不足する事態となった場合、感染拡大の防止に留意し、当該法人内の他の施設（感染者が発生していない施設）に対し、応援職員を派遣する助け合い事業です。

令和三年一月三十一日現在、応援派遣可能な障がい児者福祉施設は、三十二法人、四十八施設・事業所で、一〇三名が派遣可能となっています。

広報委員会&編集後記

「すまいる通信十一号」を編集するにあたりコロナ禍ということもあって、今回は集合せずにオンライン会議システムを使っての話し合いになりました。

新型コロナウイルス対策について私たちができること、やっておくべきこと等の意見が多く出され、今回はコロナ禍においても勢いのある企業との共同受注による生産活動の取り組みや安全対策を行いながら工夫し実現させた余暇活動の様子、そして新型コロナウイルス対策のガイドラインの作成についての記事を紹介させていただきました。

今回の記事で少しでも新しいアイデアや取り組みが参考になり、利用者さんの笑顔につながれば幸いです。

新貝（しんかい）　典央（のりお）
（NPO法人　みんなのまーち
障害福祉サービス事業所　ゆめのまーち）

【発行者】社会福祉法人 福島県社会福祉協議会　障がい児者福祉施設協議会
〒960-8141 福島県福島市渡利字七社宮 111
TEL.024-523-0102 FAX.024-573-8201 E-mail. shisetsu@fukushimakenshakyo.or.jp